

Essay **エッセイ**

「5つ褒めて、3つ教えて、2つ叱る」私の後悔



臨床検査部 技師長
西村 敏治

私は小学生のソフトボールのコーチをしている。指導を始めて13年、人(子供たち)の指導・育成の難しさも教えられた。ある本で見た「5つ褒めて、3つ教えて、2つ叱る」、これが指導・教育の基本だそうだ。私はまったく逆で怒鳴り、叱り時には手もあげた。それは、いつもチームにいた息子に対してで、息子を褒めた記憶はない。

6年生の時、全国大会(滋賀県)に出場した。1回戦、2対1リードで最終回、ファーストにフライが上がった。2アウトと思った瞬間落球した。その後同点、延長戦となった。落球したのは叱ってばかりいた息子だった。真夏の暑い中、結果的には勝ったが、子供たちは体力的にも精神的にも限界にきていた。それから8年後の成人の日、その時のメンバーが集まった。話題は1回戦の落球だったが、笑い話のネタとなっていた。

息子は野球が好きで中学、高校と続けた。しかし、叱ってばかりいた私を嫌っていたのだろう。「練習も試合も観に来たらオレ野球辞める」と言っていたので1回も行かなかった(いや、行けなかった)。高校3年の夏(東・東京大会)最後だと思い神宮第2球場に行った。3番、ファーストだった。6年ぶりにプレーを見て、もちろん体の成長もあるが、キャッチングの美しさに感動し、学校の先生が褒めて育てたのかなと、その成長した姿にちょっとウルルンときた。1回戦、最終回4対3で

リードし2アウト1塁、ファーストにフライが上がった。悪夢を思い出し思わず下を向いた。周りで歓声があがりグラウンドに目を向けると息子が右手にボールを持って人工芝の上で飛び跳ねていた。2回戦は楽勝かと思われたが、負けた。

息子の打席で2アウト満塁のチャンスが二度あったが、いずれも空振りの三振だった。今日は打ちに行った三振、その「積極性」をはじめ褒めて野球談義でもしようと思っていたが、その日は家に帰ってこなかった。私の子育て見逃し三振だった。私が日頃から褒めて指導していたら空白の6年間でなく、もっと、もっと会話できた親子関係が築けていたのかもしれない(わが子を褒めることの難しさ、そして後悔!)

昨今、いじめによる自殺が毎日のように報道されている。軽微な発言かもしれないが、毎日ひとつでもふたつでも褒める指導者や仲間がいれば生きよう、生きなければと考える勇気が少しでも湧いてくるのでは、と思うが。子育ての失格者が語ることはないが、今、教育の基本「5つ褒めて...」が消え、日光東照宮の猿と化してはいないだろうか。



患者さんからの声

鍵なし、置きっぱなし...
使えない傘立てを
なんとかしてほしい



院内ご意見箱に
寄せられた
メッセージ

雨の日は当然傘を差して来院するのですが、玄関横の傘立てには、鍵がなく、傘が立っていない場所も多くあります。また、晴れている日でもたくさんの傘が立ったままになっています。来院者の不注意の問題もあるのですが、使えない傘立ても困ります。なんとかしていただきたいです。



病院からひとこと

ご意見ありがとうございます。おっしゃるとおり忘れられたと思われる傘も多く見られ、当院では定期的に回収し警備員室にてお預かりしております。またその旨、掲示もさせていただいております。また、掛けた鍵をポケットなどに入れたまま忘れて帰ら

れてしまう患者さんがおられることについては、鍵についているプレートが小さいのではないかと、という意見もあり、現在もう少し大きなプレートに変更する準備を進めております。

傘も鍵もない箇所につきましては、予備の鍵もないため残念ながら使用することができません。改修を進める予定ではありますが、今後も気持ちよく当院をご利用いただくため、傘をお持ちになった日のお帰りの際にはお忘れなきようお願いする次第です。



健康レシピ 1月の行事食 お節料理(正月)



祝肴盛り合わせ

- *鯛の塩焼き、海老の甘辛煮
- *数の子いくらおろし和え
- *伊達巻、紅白蒲鉾、田作り
- *煮しめ
- *黒豆
- *フルーツ

「お節」の由来

日本の暦は、一年に5つの節句を持っています。その5つの節句とは、以下の通り。

人日(1月7日) 上巳(3月3日) 端午(5月5日) 七夕(7月7日) 重陽(9月9日)

その日は神様にお供えをし、家族そろって節振舞にあずかりますが、これが「お節」の始まりとなり、今はお正月の料理を「お節」と呼ぶようになりました。

「お節」は五穀豊穡を願い、家族の安全と健康、子孫繁栄の祈りを込めて縁起の良い食材の名にこと寄せ、海の幸・山の幸を豊かに盛り込んだものです。

「お節」は昔から、五法・五味・五色をバランスよく取り入れて作るのが良いとされてきました。

古閑 義広 エームサービス(株)

Topics **ご存じですか? 耳より情報**

脳卒中治療の最高評価病院に選ばれました

昨年の12月24日、日本経済新聞の一面に「脳卒中治療、29病院最高評価」が掲載されました。東京では当院を含め4病院が「AAA」をもらい、特徴として「患者数5年で3倍超」とありました。また、特記として取り上げられた「tPA」(平成17年に保険適用され、脳梗塞の治療に有効な血栓溶解剤)の使用実績もトップレベルにあります。

記事中にも「脳卒中で最高評価となった病院は、医師や看護師、技師らのチーム医療が充実」とありますが、当院は平成17年5月に日本で2番目の本格的な「脳卒中センター」を開設し、脳血管障害に対する専門知識を有する神経内科医、脳神経外科医に加え神経放射線医、リハビリテーション医と看護師、医療ソーシャルワーカーやその他の多職種から構成されるスタッフが超急性期から包括的なチーム医療を実践し、実績を挙げてきました。

また、退院後も地域の開業医の先生方と密接な連携を保ち、再発防止に努めています。

脳卒中の上位病院

病院名	所在地	過程評価	構造評価	治療成績評価	患者数(人)	死亡数(人)	死亡率(%)	tPA(人)
【関東】= 11病院								
筑波メディカルセンター	茨城	A	A	A	1,242	124	10.0	18
土浦協同病院	茨城	A	A	A	1,294	139	10.7	4
自治医大病院	栃木	A	A	A	1,094	69	6.3	3
独協医大病院	栃木	A	A	A	1,520	97	6.4	
美原記念病院	群馬	A	A	A	1,142	81	7.1	20
埼玉医大総合医療センター	埼玉	A	A	A	2,327	146	6.3	0
NTT東日本関東病院	東京	A	A	A	533	31	5.8	16
東京女子医大病院	東京	A	A	A	816	10	1.2	2
東海大八王子病院	東京	A	A	A	1,423	70	4.9	8
虎の門病院	東京	A	A	A	514	26	5.1	0
東海大病院	神奈川	A	A	A	1,338	119	8.9	19

当院脳卒中センターの医療連携のしくみ
医療連携とパスの導入

